

大／阪／の／建／築／まちあるき——「みしま野」

普門寺 (ふもんじ)



国重要文化財指定・方丈



国重要文化財指定・観音補陀落山の庭



隠元和尚が「獅林」と書いて仏殿に掲げられていた額



隠元和尚によって造られた石畳

所在地： 高槻市富田町 4-10-10
 最寄駅： JR 摂津富田・阪急富田駅下車
 南へ徒歩約 15 分
 問い合わせ先は普門寺まで
 見学は前日までの予約が必要で有料
 です (大人：400 円)
 国指定重要文化財：方丈・観音補陀落山の庭
 TEL： 072-694-2093
 FAX： 072-694-2093

富田は酒造りの街として日本酒を嗜む人々の間で知られている。富田の街中には以前紹介した本照寺や日本酒蔵元とも縁(えにし)のある慶瑞寺がある。慶瑞寺を再興した名僧・龍溪和尚が当時長崎に居留していた中国の名僧・隠元和尚を招き、興隆に尽力した寺院が此処、慈雲山・普門寺である。隠元和尚は宇治に黄檗山・万福寺を開創するまでの七年半の間、普門寺の住持として留まっていたとされ、境内には隠元和尚が「獅林」と認め普門寺仏殿に掲げられていた額も残っている。

普門寺は明德元年(1390)建長寺派を開山した蘭溪道隆の流れを受け継いだ僧侶・設巖によって創建された。一旦は荒廃したが、永禄年間には普門寺城として、摂津管領細川晴元公や足利十四代將軍義栄公の居城であった時代もあった。慶長九年(1604)妙心寺派に移り、龍安寺の末寺となる。多くの堂塔伽藍が軒を連ねる大きな寺院であったが再び逼塞し、隠元和尚によって興隆された。黄檗宗に宗旨を変えるが再び妙心寺派に復帰し、龍安寺の輪番寺となる。明治時代には廃仏毀釈の嵐に巻き込まれ荒廃し、寺領も失った。

方丈は平屋入母屋造り柿葺きで、現在の建物は永禄年間に再建、元和七年(1622)に現在の位置に移築されたとされている。小振りな建物ながら要所に潇洒な造りが散見でき、江戸時代初期の工匠が腕を振った技術が高槻の街中で見られる処が興味深い。また庭は京都桂離宮の松琴亭北園「天橋立」で使われた石組みが取り入れられた異様な様式を持つ貴重な遺構であるとされており、近でで見られる文化財として興味を引く。なお、山門(現在改修中)に入って庫裏に至る敷石は隠元和尚によって指揮され作られた石畳であるとされており、境内への導入部にも細やかな気遣いが伺える。

(神保 勲)